


充実した研究支援体制

ライティング指導室（創思館 307）には、研究指導助手と英語論文指導スタッフが常駐しており、以下の業務を行っています。

- 日本語論文の書き方および添削指導（研究指導助手・日本語論文指導スタッフ）。
- 英語論文の書き方および添削指導（英語論文指導スタッフ）。
- 先端総合学術研究科主催のシンポジウム・研究会の企画・運営に関わる業務。
- 『Core Ethics』（研究科紀要）の編集、研究科彙報の編集、研究科 Web サイトの管理、院生プロジェクトの運営の支援など。

また本研究科の博士論文の閲覧受付、図書・備品の貸し出し、『Core Ethics』・彙報の配布等も同室にて実施しています。



多彩な研究教育プログラム

先端総合学術研究科は、開設以来「プロジェクト型大学院」として他の研究所・センター群と連携しつつプロジェクトを遂行してきました。現在では、以下の研究センター・研究所を中心としたプロジェクトを通じて教育研究を進めています。

- 生存学研究所
- ゲーム研究センター
- 人間科学研究所
- 国際言語文化研究所
- アート・リサーチセンター
- 国際平和ミュージアム
- 平和教育研究センター
- 環太平洋文明研究センター

これまでの博士論文例

2003年4月の本研究科開設以来、2018年9月までに121名（甲種118名、乙種3名）の博士号取得者を輩出しました。

これまで提出された博士論文の題目は、研究科ホームページに掲載しております。
博士号取得者 <http://www.r-gscefs.jp/?p=88>

2018年3月と2018年9月の博士号取得論文（9本）

「戦後日本における大衆薬の分化過程についての歴史的考察—安全性と効果の政治学—」

「『抵抗』する女たち—フランス語圏カトリック海文学における『シスターフード』—」

「福祉制度とALSの人の家族介護に関する質的研究—韓国介護支援制度を中心に—」

「日本における新生児マス・スクリーニングの歴史的検討—「遺伝」をめぐって—」

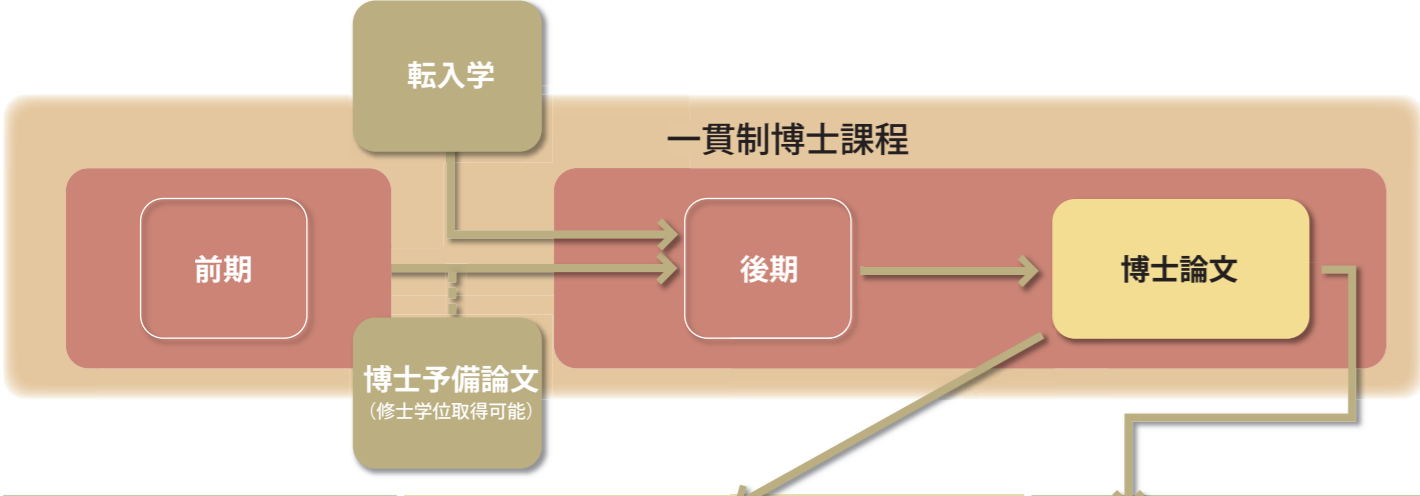
「恵那地方の障害児者地域生活運動—生活圏と人々が織り成す現代史—」

「障害基礎年金制度の成立プロセスを探る—当事者運動と年金改革の接点—」

「日本における脊髄損傷医療の歴史的研究—脊髄損傷「患者」の生成と変容—」

「相談支援の基本構造と形成過程—精神障害を中心に—」

「精神分析草創期における共感に関する心理歴史学的研究—フロイト、アブラハム、フェレンツィの人生とプラクティス—」



院生のための奨学金・研究活動助成制度

- 先端総合学術研究科院生プロジェクト
- 立命館大学大学院1年次対象成績優秀者奨学金（Ⅰ・Ⅱ）
- 立命館大学大学院2年次対象成績優秀者奨学金（Ⅰ・Ⅱ）
- 立命館大学大学院博士課程後期課程研究奨励奨学金（S・A・B）
- 立命館大学大学院博士課程前期課程学生会奨学金
- 立命館大学大学院博士課程後期課程学生会奨学金
- 立命館大学大学院博士課程後期課程国際的研究活動促進研究費
- 立命館大学大学院博士課程後期課程国内研究活動促進研究費
- 立命館大学大学院学生会研究会活動支援制度
- 立命館大学大学院博士後期課程博士論文出版助成制度

※先端総合学術研究科の院生が利用できる支援制度の一部です。制度は変更される場合があります。詳細は、入学手続または入学時に説明します。

※立命館大学大学院生に対する奨学金・支援制度の概要 http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/

※「大学院生のための奨学金・研究助成ガイド」を配布しています。

博士論文などをもとにした書籍の刊行

受賞作・2018年以降に刊行された書籍の一部

川口有美子(2012年度修了)第41回大宅壮一ノンフィクション賞、『逝かない身体:ALS的日常生活を生きる』(2009年、医学書院)

川端美季(2011年度修了)第2回法政大学出版局学術図書刊行助成、『近代日本の公衆浴場運動』(2016年、法政大学出版局)

山本由美子(2012年度修了)第1回生存学奨励賞審査員特別賞、『死産児になる:フランスから読み解く「死にゆく胎児」と生命倫理』(2015年、生活書院)

由井秀樹(2013年度修了)2015年度日本科学史学会学術奨励賞、『人工授精の近代:戦後の「家族」と医療・技術』(2015年、青弓社)

矢野亮(2014年度修了)第2回生存学奨励賞、『しかし、誰が、どのように、分配してきたのか:同和政策・地域有力者・都市大阪』(2016年、洛北出版)

萩原由加里(2009年度修了)日本アニメーション学会奨励賞 2016、第13回木村重信民族芸術学会賞、『政闘書とその時代:「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』(2015年、青弓社)

小西真理子(2013年度修了)第4回生存学奨励賞、『共存の倫理:必要とされることを渴望する人びと』(2017年、晃洋書房)



研究者としてのキャリアパス支援

博士号取得後のキャリアパスとして、各種ポストドクトラルフェローの制度があります。日本学術振興会特別研究員や立命館大学衣笠総合研究機構の専門研究員プログラムなどに多くの院生・修士が採用されています。

日本学術振興会特別研究員採用者数

2012年度	DC9名+PD4名
2013年度	DC2名+PD3名
2014年度	DC4名+PD2名
2015年度	DC2名+PD4名
2016年度	DC1名+PD1名
2017年度	DC2名+PD1名+RPD1名
2018年度	DC4名
2019年度	DC2名+PD1名+RPD1名

※PD・RPDは送り出し

衣笠総合研究機構専門研究員新規採択者数

2014年度	4名
2015年度	0名
2016年度	3名
2017年度	1名
2018年度	0名
2019年度	2名

大学院高度化施策初任研究員採択者数

2019年度	1名
--------	----

主な就職先
ロンドン大学東洋アフリカ研究学院、金沢大学、大阪大学、滋賀県立大学、早稲田大学、南山大学、大阪府立大学、静岡大学、聖隷クリストファー大学、中部大学、日本福祉大学、福岡教育大学、和光大学、名古屋市立大学、三重県立看護大学、日本大学、帝京大学、千葉商科大学、岩手大学、韓国・光州大学、台湾・高雄文藻外国語学院、島根県立美術館など

先端総合学術研究科の多様な入試方式を紹介します

入学定員は全体で30名です。各入試方式はその募集人数を超える合格者数になることがあります。なお、受験資格や実施時期を詳細に定めた入試要項については、必ず最新のものを立命館大学大学院入試情報サイト <http://www.ritsumei.ac.jp/gr/exam/index.html/> で確認・入手してください。

一般入学試験（募集人数 10名）

■選考方法
書類選考、筆記試験および面接試験を総合評価し合格者を決定します。

(1) 筆記試験（※英語での受験を選択することができます）
・専門科目 公共、生命、共生、表象の4つのテーマ領域に関する専門的知識を問う問題から選択
・小論文 読解力と論述能力を問う問題

(2) 書類選考・面接試験

■出願書類
(1) 入学試験志願票（「Ritsu-Mate」で入力後に印刷したもの）
(2) 外国籍志願者情報（外国籍の方のみ）（本学所定用紙）
(3) 最終学校の成績証明書および卒業（見込）証明書
(4) 研究計画書（2,000字程度）（本学所定用紙）
(5) 年次計画書（本学所定用紙）
(6) 卒業（演習）論文の概要（様式自由）
(7) 旅券の氏名・生年月日が記載された頁の写し（出願時に有効な旅券を所持している外国籍の方のみ）
(8) 中国の大学または大学院を卒業（修了）した方は、教育部学歴證書電子注冊備案表を印刷したもの。中国の大学または大学院に在学中の方は、教育部学籍在線検証報告を印刷したもの。

一般入学試験（自己推薦）（募集人数 5名）

■選考方法
書類選考および面接試験を総合評価し合格者を決定します。

■出願書類
(1) 入学試験志願票（「Ritsu-Mate」で入力後に印刷したもの）
(2) 外国籍志願者情報（外国籍の方のみ）（本学所定用紙）
(3) 最終学校の成績証明書および卒業（見込）証明書
(4) 自己推薦書（本学所定用紙）および関連資料
(5) 研究計画書（2,000字程度）（本学所定用紙）
(6) 年次計画書（本学所定用紙）
(7) 自由テーマ論文（2,000字程度 様式自由）
(8) 旅券の氏名・生年月日が記載された頁の写し（出願時に有効な旅券を所持している外国籍の方のみ）
(9) 中国の大学または大学院を卒業（修了）した方は、教育部学歴證書電子注冊備案表を印刷したもの。中国の大学または大学院に在学中の方は、教育部学籍在線検証報告を印刷したもの。

社会人入学試験（募集人数 5名）

■選考方法
書類選考および面接試験を総合評価し合格者を決定します。

■出願書類
(1) 入学試験志願票（「Ritsu-Mate」で入力後に印刷したもの）
(2) 外国籍志願者情報（外国籍の方のみ）（本学所定用紙）
(3) 最終学校の成績証明書および卒業（見込）証明書
(4) 自己推薦書（本学所定用紙）および関連資料
(5) 研究計画書（2,000字程度）（本学所定用紙）
(6) 年次計画書（本学所定用紙）
(7) 自由テーマ論文（2,000字程度 様式自由）
(8) 履歴書（市販用紙）
(9) 旅券の氏名・生年月日が記載された頁の写し（出願時に有効な旅券を所持している外国籍の方のみ）
(10) 中国の大学または大学院を卒業（修了）した方は、教育部学歴證書電子注冊備案表を印刷したもの。中国の大学または大学院に在学中の方は、教育部学籍在線検証報告を印刷したもの。

外国人留学生入学試験（募集人数 若干名）

■選考方法
書類選考および面接試験を総合評価し合格者を決定します。

■出願書類
(1) 入学試験志願票（「Ritsu-Mate」で入力後に印刷したもの）
(2) 外国籍志願者情報（本学所定用紙）

〈問い合わせ先〉立命館大学衣笠独立研究科事務室 tel 075-465-8348
〈入試要項請求先〉立命館大学大学院課 tel 075-465-8195

- 最終学校の成績証明書および卒業（見込）証明書
- 研究計画書（2,000字程度）（本学所定用紙）
- 年次計画書（本学所定用紙）
- 卒業（演習）論文の概要（様式自由）
- 旅券の氏名・生年月日が記載された頁の写し（出願時に有効な旅券を所持している外国籍の方のみ）
- 中国の大学または大学院を卒業（修了）した方は、教育部学歴證書電子注冊備案表を印刷したもの。中国の大学または大学院に在学中の方は、教育部学籍在線検証報告を印刷したもの。

学内進学入学試験（募集人数 10名）

■選考方法
書類選考および面接試験を総合評価し合格者を決定します。

■出願書類
(1) 入学試験志願票（「Ritsu-Mate」で入力後に印刷したもの）
(2) 外国籍志願者情報（外国籍の方のみ）（本学所定用紙）
(3) 成績証明書
(4) 卒業（見込）証明書
(5) 研究計画書（2,000字程度）（本学所定用紙）
(6) 年次計画書（本学所定用紙）
(7) 卒業（演習）論文の概要（様式自由）
(8) 旅券の氏名・生年月日が記載された頁の写し（出願時に有効な旅券を所持している外国籍の方のみ）

APU 特別受入入学試験（募集人数 若干名）

■選考方法
書類選考および面接試験を総合評価し合格者を決定します。

■出願書類
(1) 入学試験志願票（「Ritsu-Mate」で入力後に印刷したもの）
(2) 外国籍志願者情報（外国籍の方のみ）（本学所定用紙）
(3) 成績証明書
(4) 卒業見込証明書
(5) 研究計画書（2,000字程度）（本学所定用紙）
(6) 年次計画書（本学所定用紙）
(7) 卒業（演習）論文の概要（様式自由）
(8) 旅券の氏名・生年月日が記載された頁の写し（出願時に有効な旅券を所持している外国籍の方のみ）

飛び級入学試験（募集人数 若干名）

■選考方法
書類選考、筆記試験および面接試験を総合評価し合格者を決定します。

(1) 筆記試験（※英語での受験を選択することができます）
・専門科目 公共、生命、共生、表象の4つのテーマ領域に関する専門的知識を問う問題から選択
・小論文 読解力と論述能力を問う問題

(2) 書類選考・面接試験

■出願書類
(1) 入学試験志願票（「Ritsu-Mate」で入力後に印刷したもの）
(2) 外国籍志願者情報（外国籍の方のみ）（本学所定用紙）
(3) 成績証明書
(4) 研究計画書（2,000字程度）（本学所定用紙）
(5) 年次計画書（本学所定用紙）
(6) 旅券の氏名・生年月日が記載された頁の写し（出願時に有効な旅券を所持している外国籍の方のみ）

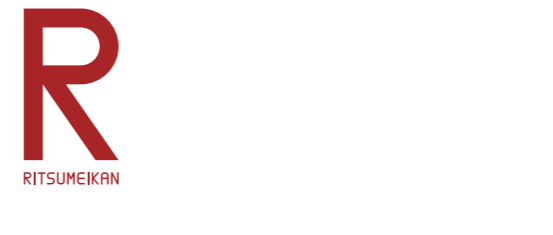
転入学試験（募集人数 若干名）

■選考方法
書類選考および面接試験を総合評価し合格者を決定します。

■出願書類
(1) 入学試験志願票（「Ritsu-Mate」で入力後に印刷したもの）
(2) 外国籍志願者情報（外国籍の方のみ）（本学所定用紙）
(3) 最終学校の成績証明書および修了（見込）証明書
(4) 研究計画書（2,000字程度）（本学所定用紙）
(5) 修了論文（またはそれに相当する研究実績）およびその概要（2,000字程度 様式自由）
(6) 旅券の氏名・生年月日が記載された頁の写し（出願時に有効な旅券を所持している外国籍の方のみ）
(7) 中国の大学または大学院を卒業（修了）した方は、教育部学歴證書電子注冊備案表を印刷したもの。中国の大学または大学院に在学中の方は、教育部学籍在線検証報告を印刷したもの。

※出願資格、出願書類等については必ず最新の入学試験要領をご確認下さい。いずれの試験も、試験場は衣笠キャンパスです。

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
先端総合学術研究科入試情報サイト <http://www.admissions.jp/>



人類の課題に新たな知をもつて挑む



立命館大学大学院 先端総合学術研究科

<http://www.r-gscefs.jp/>

先端総合学術研究科の理念

日本の大学制度は今、近代化の初期に大学が創設されて以来、もっとも大きな変革の時代に直面している。学部から大学院までの教育研究システム全体が、国際的な水準を視野に入れた根底的な見直しをせまられている。高度な専門職技能の養成と、新たな時代の問題に取り組む研究者の養成がもたらされているのである。この新たな時代の研究者の養成に向けて立命館大学が提起するのが先端総合学術研究科の構想である。

基本的に学部の上に置かれた現在の大学院は、明治以来の近代的学問体系にのっつたディシプリン、すなわち専門分野の区分に基づいて構成されている。先端総合学術研究科は、20世紀から今世紀に引き継がれた新たな質の、先端的なテーマに取り組む研究者の養成のために、特定学部を基礎とするのではない独立研究科とした。独立研究科としてディシプリンの総合化をはかり、また、研究所・センター群との連携によるプロジェクト研究における教育によって、大学院教育と先端的で総合的な研究との緊密な結合を実現することを基本的な狙いとしている。(2003年先端総合学術研究科開設文書より)

一貫制のプロジェクト型大学院 ——ディシプリンからテーマへの転換

1 特色

多様なプロジェクトが織りなす新しい大学院教育

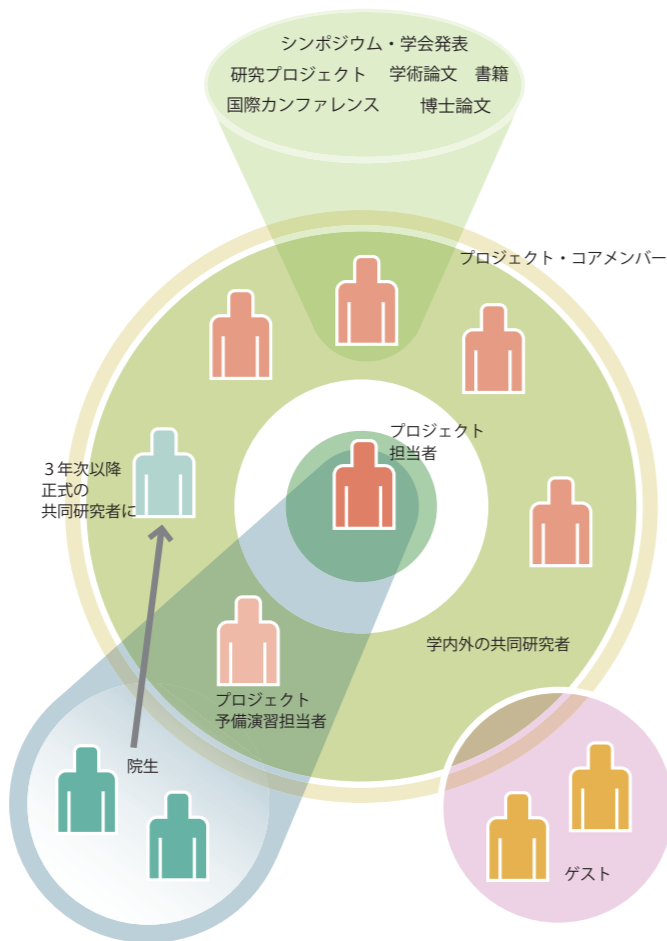
立命館大学の研究所・センター群は、学生が教員とともに課題とテーマを設定し学術研究を進展させるプロジェクト研究によって多くの成果を上げてきました。先端総合学術研究科は大学院教育とプロジェクト研究を結びつけることで、ディシプリンを横断し現代社会の要請に応じられる研究者の養成を行います。

カリキュラムは、①アカデミック・リーディングを学ぶ「基礎共通科目」、②4つのテーマ領域の専門知識を学ぶ「基礎専門科目」、③研究のアウトプット方法や倫理を学ぶ「サポート科目」、④テーマ領域ごとの研究の実践的な発表・討議の場となる「演習科目」に分かれています。プロジェクト型の教育・研究システムでは、各教員の「個別プロジェクト」が全科目の運営に反映され、専門分野のディシプリンにそって個別具体的に学ぶのではなく、テーマを横断した知を得られることが特徴です。

それ以外に、合同研究会やフィールド調査など、教員や院生の自主的・個別的なプロジェクト形成を通じて、新たな研究の潮流を生み出すことを目標とします。また研究会は専任教員を中心に学内外の第一線の研究者たち、さらにそのときどきのゲスト参加者を交えて開催され、研究ネットワークを形成します。

院生は、1、2年次には研究の基礎的な力を身につける勉強をしながら、こうした研究会やプロジェクトに参加します。1、2年次に履修する「プロジェクト予備演習Ⅰ・Ⅱ」は、各テーマ領域やプロジェクトに密接に関連した専門知識を有する教員のもとで、基礎的な研究手法を身につける科目です。2年次後期以降にはプロジェクト担当者である専任教員が受け持つ「プロジェクト予備演習Ⅲ」も加わり、博士予備論文に取り組みます。

博士予備論文の審査に合格すると、その院生は正式な共同研究者として、プロジェクト研究そのものの運営にあたって中核的な役割を果たすことになります。すなわち、計画的に研究を推進する日々の活動の一翼を担いつつ、研究会や学外の諸学会等における成果発表を着実に積み重ねていくことになるのです。



2 教員紹介

4つのテーマ領域で専任スタッフがディシプリンを超えて新しい研究領域を創出します

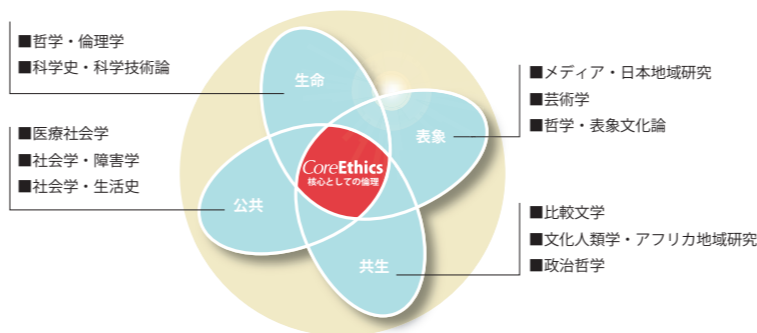
個人個人の日常的な生き方から、国家や共同体レベルの政策決定まで、さまざまな次元を視野に入れながら、わたしたちは、コア・エシックス（核心としての倫理）にふれる4つのテーマを選びました。そして、テーマごとに「科目としてのプロジェクト」が設置され、さらに各教員が中心になって運営する「個別プロジェクト」が設けられるのです。



岸政彦
社会学・生活史

立岩真也
社会学・障害学

美馬達哉
医療社会学



公共

21世紀における公共性

身体をめぐる言説・運動・政策の変容過程を検討しつつ、断片的な生のあり方を拾いあげながら、デモクラシーと生存のための社会システムの公共性を探ります。

生活史——岸政彦

寛容さがますます失われつつある今、「他者理解」は何よりも私たちに必要だが、一方で他者を安易に理解することは暴力ともなりうる。私は、さまざまなマイノリティの個人的な生活史（ライフ・ヒストリー）に耳を傾けることを通じて、ささやかながら、他者を理解することの可能性と不可能性について考えている。私たちはみな、どうしようもない現実のなかで、少しでもよりよい人生を生きようと懸命に努力している。そうした人生の物語が語られる現場に立ち会い、記憶と経験と歴史的現実が生まれる瞬間を目撃するために、今日も IC レコーダーの小さな舟に乗って、生活史の海に漕ぎ出す。そこにはすべての苦しみ、悲しみ、喜び、希望と絶望がある。

身体の現代・他——立岩真也

私は私の仕事を続けていければいくことになりますが、以下はその一部でもあり、ただ自身でとてもできず、多くの人がいるとよいと思うこと。2017年度によく通った研究費応募書類の冒頭。「障害や病が訪れて人は身体の違い・変容を生きて。その人達を巡ってこの国での50年余りにあったことの大部分は、記録も考察もされていない。今後しばらくが最後の機会となる。気鋭の研究者の力と大学院生・修了者の参与を得て、研究を組織化し、以下を明らかにする。」続きはHP検索→「生存学」→「身体の現代——言説・運動・政策」。

医療・身体性・グローバリゼーション・思想——美馬達哉

人間の身体は、私的な領域に属しているだけでなく、現代社会においては、バイオテクノロジーによって人格と切り離された独自存在——臓器や iPS 細胞など——として公的領域のなかに組み込まれつつある。こうした意味で、身体と公共という論点は現代社会において重要である。今後の研究計画としては以下を考えている。

1. フーコーの権力論を批判的に継承しつつ、リスクに着目して、現代のグローバリゼーション状況のもとで身体性がどう変容しつつあるかを分析していく。
2. 医師という経歴を生かして、理系と文系の両方の分野を横断的に取り扱って、公共性を再考していく。
3. 脳可塑性の臨床応用とその社会的含意について、オシロロジーの観点から検討していく。



小泉義之
哲学・倫理学



松原洋子
科学史・科学技術論

生命

争点としての生命

生命科学・医療・福祉をめぐる科学的知識・技術の歴史的検討、倫理的諸問題の整理を通じて、生命・生殖・病・死を総合的に探求し、新しい生命の理解と倫理の構築可能性をひらきます。

生命論の理論的争点——小泉義之

哲学・倫理学を基礎に、小泉が中心となって、近現代において生命と生物が理論的にどのように認識され、文化的にどのように表象されてきたかを整理して、新しい生命論を展望する。また、現代生物学がいかなる理論的課題に直面し、現代文化がいかに生と死を表象しているかを整理し、生命と生殖と病と死について総合的に探求する。そして、現代的な生物観ひいては人間観を構築することを目標とする。

生命と技術の倫理——松原洋子

科学史・科学技術論を基礎に、松原が中心となって、生命科学・医療・福祉に関する科学的知識および科学技術をめぐる諸問題について広範な資料収集をおこない、適切な研究法を探索する。個人レベルでの生命の保持や能力の増進、次世代に関わる生殖や出生の管理、個体間での生体組織・機能や情報の交換、個と全体の関係が問われる人口・生態系・進化など、様々な位相に注目しながら、科学と技術の抱える問題を、整理・検討する。そして、こうした問題に接近するための生命論と、あるべき新しい倫理の構築をこころみる。



小川さやか
文化人類学・アフリカ地域研究



P・デュムシエル
政治哲学



西成彦
比較文学



竹中悠美
芸術学



千葉雅也
哲学・表象文化論



M・ロート
メディア・日本地域研究
(2019年9月着任)

共生

共生の可能性と限界

多大な犠牲をともなう不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探ります。

狡知、Living For Today、新しい経済文化の人類学的探求——小川さやか

文化人類学を基礎に小川が中心となって、世界各地の同時代を生きる人々の日常的でミクロな営みから、他者と共によりよく生きるための仕組みや知恵、新しい人間観・世界観を探索する。とりわけ、アジア・アフリカ諸国のインフォーマル経済とそこで働く知恵（狡知）、多様な「その日暮らし」のあり方と、ブロックチェーンやシェアリング経済をめぐる思想とを重ね合わせ、新自由主義的な経済システムや未来優位の時間の観念、生産主義的で自立的な主体観に縛られた私たちの生のあり方を相対化し、ひとつではない多様な生のあり方を構想する。

市民社会は共生のモデルとなりうるか？——P・デュムシエル

政治哲学を基礎にデュムシエルが中心となって、市民社会の起源と構造を論じたさまざまな社会、政治哲学の再検討をおこなう。西洋のそれぞれの国民的伝統のなかで市民社会が形成され、また、この社会の原理を根拠づけるさまざまな哲学の流れが生み出されてきた。市民社会においては、欲望を実現する主体としての市民を前提として、市民が契約し、経済システムを構成し、社会を民主的に運営するとされるが、欲望はどのように構成されるのか、欲望と経済システムの関係はいかなるものか、そうした基本的な視点から、そこに含まれた「普遍的」とされる原理の可能性と限界を問い直す。

カタストロフィと文学——西成彦

人類の歴史はかずかずの「災厄」に彩られてきた。自然災害であれ、戦争や人災であれ、災害はけっして一様にひとに襲いかかってくるわけではない。しかも、加害者側に立って責任を引き受けなければならないことが往々にしてある。そうしたなかで、「カタストロフ」の危険にさらされてきたひとびと、および、そこに加害者・傍観者として関わってしまったひとびとの経験と記憶は、その一部が「記録」に残されるが、それでも足りない部分は「文学的な想像力」にゆだねるしかない。文学の可能性と限界を考える。

表象

文化と芸術の表象論的分析

文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を主軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチします。

社会におけるアートの作用機序——竹中悠美

芸術学を基礎に置き、社会の中でアートに託された機能とそれを実践するための制度的・技術的システムを検討する。アートがパブリックな文化財として「消費」される現代の資本主義社会において、われわれとアートを取りもつたるシステムは美術館やアートセンターという場所と情報メディアである。そこで、展覧会、アートプロジェクト、文化政策が企図する文化活動の方法と課題、およびメディアにおけるその扱いを検証することによって、アートの意義を問い直す。

現代哲学と批評のあいだで思考する——千葉雅也

表象文化の多様なケースを併せて考察するために、現代哲学を媒介として芸術・文化・社会・欲望の諸理論を交流させ、そして、領域横断的な論述の方法、および批評的なスタイルの修辭学を検討する。人間＝私たちを特権化しない「ものごと」の存在論・形而上学と連動して展開される表象論を目指し、これを、現代のテクノロジー状況——それは人間性をめぐる常識・良識を変容させざるをえないだろう——に応じた「人文学への批評」の一環として提示していく。

ゲーム・デジタルメディア表現論——M・ロート

遊びとデジタル技術が組み合わされることにより生まれる表現空間・インタラクション空間の可能性と限界を検討する。日本のゲームを中心に、その空間においてどのような想像力・文化が発生し、あるいは現代社会の諸問題がどのように表出し、議論され、解決方法が探られているかを批判的に分析する。そのためには各空間に触れると同時に、これらの空間の社会的・経済的・技術的・制度的な背景を理解する必要がある。表象文化のみならず、現代社会は、デジタル技術により大きく変化しつつある。ゲーム・プラットフォーム・デジタルメディア空間はその変化を考えるための一つの鍵となるはずだ。